

令和4年度旭川未来会議2030福祉分野 第3回分野別会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年10月12日（水） 午後6時30分から午後8時20分まで
- 2 開催場所 旭川市第二庁舎3階 問診指導室（旭川市7条通10丁目）
- 3 出席者（参加者） 石川 雅之，神田 典行，五所 卓子，高木 恵，高橋 糸子，
高橋 通江，高森 崇，中島 寛之，飛驒 晶子
※敬称略，五十音順
- 4 出席者（市側） （運営事務局）
福祉保険部
福祉保険課 今課長，古川主幹，鷺塚地域福祉係主査，地域福祉係 正木
（統括事務局ほか）
総合政策部
広報広聴課 中屋課長，乙坂広聴係主査
政策調整課 廣岡主査
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容
 - (1) 開会
事務局の今課長から配付資料の確認の後，進行役により，開会の挨拶，本会議の欠席者の報告が行われた。
 - (2) 議事
ア 全体報告会の資料（案）について
資料3「福祉分野の課題抽出・整理と解決に向けたアプローチについて（仮）」を踏まえ，参加者へ意見を求めた。

(進行役)
・本会議で協議してきた内容については11月1日の全体報告会で発表することとなる。発表の際に使用するスライドのフォーマットが示されており，これまで協議されてきた内容をフォーマットに落とし込んだサンプルが資料3になる。
資料3について，タイトルのページをめくると，1ページ目に「旭川市の人口・世帯等の推移の推計データ」が記載されている。このページについては，キックオフミーティングにおいて，第4期地域福祉計画に基づいた旭川市を取り巻く現状・背景ということで，概ね事務局から説明があった内容となっている。以後のスライドで示す課題等に対する内容として，簡易的

であるが基礎的なデータを掲載している。

以降のページについては、これまでの分野別会議で行われた意見交換を経て、作成された課題整理票等を要約した内容の資料となっている。改めて配付した資料を確認していただきたい。

なお、本会議では、4ページと7ページを中心に協議していきたい。

(参加者)

- ・フォーマットはこの形式で確定であるのか？

(進行役)

- ・基本的には当該フォーマットをベースに、全体報告会の資料を作成することとなっている。

(参加者)

- ・議事録等に基づき、概ね課題整理等ができている内容であると思う。

(進行役)

・6ページ（課題解決に向けた意見を整理）の内容について意見を述べさせていただく。課題を大分類で3つのカテゴリに分けており、前回の会議では、課題に対する具体的なアプローチ方法についての意見をいただいたところである。資料3において、アプローチ方法についてはうまくまとめられていると思うが、各委員からいただいた発言をベースにした具体的な形に変えた方がわかりやすいという印象を受けた。

例えば、アプローチの方法の一番上の項目に「町内会活性化のため、活動の意義や役割を明確化する取組」とあるが、これまでの会議のなかで「札幌市のように条例化して周知するような取組をしたほうがよい」といった具体的な解決方法の御意見があったと思っており、このことから「条例化」という言葉がある方が、聞き手にとって理解しやすいのではないかと思う。

I C Tの項目についても、「災害活動・サロン活動」という地域福祉活動の具体的な内容を記載することはどうだろうか。

(参加者)

- ・資料3に記載されている内容は、全体発表会での報告の際に、市長や傍聴者に理解をしてもらう必要があるので、可能であれば具体性が伴った方が良いと思う。

(参加者)

- ・1ページ（旭川市の人口・世帯等の推移）の内容について、引きこもり状態の割合が特別に記載されているが何か意図があったのか。

(事務局)

・記載した意図としては、これまでの会議で相談支援体制について話してきた経過があったので、「支援が必要である」と自ら声を上げることが難しい人がどの程度いるのかという参考として記載したところであり、きめ細やかな相談体制が必要だという課題に対しての背景として示すことができればと思い記載した。皆さんで協議の上で不要であれば、削除をしても全く問題

はない。

(参加者)

- ・引きこもり状態にある者の割合の3.02パーセントというデータは、2022年のデータになるのか。2030年には2,405人と記載しているが、人数とパーセンテージとどのような関係になるのか。

(事務局)

- ・国の推計値が15歳から64歳までの年代では3.02パーセントということになるため、これを2030年の人口に単純に当てはめている。推計値となっている。

(参加者)

- ・3.02パーセントはこういった数値であるなどの説明が薄いような印象を受ける。

(参加者)

- ・単独世帯率は年代は関係ないのか。

(事務局)

- ・年代は関係ない。旭川市の単独世帯率の推計値である。

(参加者)

- ・旭川市の単独世帯率は、全国と比較して割合が多いのか。

(事務局)

- ・現時点では全国的なデータは持ち合わせていない。

(進行役)

- ・この単独世帯率のデータは、今後、単独世帯が増加していく見込みであることを示したく記載した。また、孤立化が進んでいることなどがわかるようにするといったことも意図して記載している。

(参加者)

- ・旭川市の単独世帯率が全国と比較した場合、高いのかが気になる。旭川市の数値のみの記載になると、この数値が高いのか低いのかがわかりづらいと感じる。

(進行役)

- ・単独世帯率の全国平均値については、後日改めて確認させていただく。

(参加者)

- ・テーマが福祉分野であることから、障害を持っている方の数なども記載したほうが良いと思

う。

(進行役)

- ・発表の制限時間が10分であることに加えて、A4一枚の資料となるため、概要の説明程度のデータの記載となる。

課題が大きく分けて3つに分類されているため、各課題に関連するデータの記載を想定しているが、各課題に関連するデータの全てを記載していくこととなると、記載するデータの量が膨大となるため、どのようにまとめたら良いか御意見を伺いたい。

先ほど御意見であった引きこもり状態にある者の割合については、国の推計値であった場合は補足説明の記載が必要だと思われる。

(参加者)

- ・課題についての現状がわかるデータを知りたいと思う。例えば、町内会加入率や自殺者の割合といった数値を年齢別にしたデータなどが、旭川市にあると思うので、そういったデータを活用し、課題に関連する現状を伝える方法もある。

(参加者)

- ・グラフがページの半分を占めているため、グラフを削り、右側スペースと同じ形には修正できないか。データの割合だけを記載する形に修正することが可能であれば、スペースの確保はできると思う。

(進行役)

- ・スペースを確保できれば、数値以外の情報についてもページに記載できるようになるかもしれない。

(参加者)

- ・先ほど話に出ていた単独世帯率であるが、全国の数値は2020年で38パーセントとなっている。改めて単独世帯率が高い印象を受ける。

(進行役)

- ・いただいた御意見を踏まえ、全体報告会の資料（案）については、改めて事務局と整理させていただく。

イ 福祉分野が考える2030年のあるべき姿について

資料3「福祉分野の課題抽出・整理と解決に向けたアプローチについて（仮）」を踏まえ、スローガンについて参加者へ意見を求めた。

(進行役)

- ・スローガンについては、例として3つ記載しているが、1つにまとめても良い。

個人的にスローガンを作成してきたので、参考にしつつ、みなさんと一緒に考えられたらと

思う。具体的に記した課題とアプローチの方法を盛り込んだスローガンも考えられるが、私が作成したスローガンは、大枠なイメージで作成したものである。

資料3（4ページ）のスローガンでは、一番上のスローガンにある「育まれるまち」という表現があたたかくて良いと感じている。

また、ここで協議された内容は、今後作成する地域福祉計画の内容にも反映されるようなものになるのではないかと感じている。

（参加者）

・進行役が作成したスローガンの一番上にある「誰もがその人らしく」という表現がとても良いと感じる。

（進行役）

・福祉分野であるため、対象になってくる方々は、障害者、高齢者のほか、地域住民も当然含まれる。地域共生社会、地域包括システムと言われているなかで、地域のさまざまな人がお互いに支え合っていくという内容が入ってくるが、これまでみなさんから伺った現状の問題点について、地域で色々な問題を抱えている方々が、なかなか必要な社会資源に結びつかないという問題であったり、訪問してもなかなかドアに出てくれないといった話を伺った。

「その人が幸せ」「その人のために何かできないか」という想いも非常に重要であるが、その人なりに必要なものや、大事にしているものがあり、本人は必要がないと感じているところを周りがどうしても必要だと求める状況では、なかなか繋がりを築くことは難しいと思う。

また、福祉を考えるときに（憲法第25条の生存権をベースとした）「最低限度」という枠組みに基づき、特に「贅沢はできない」「自分のことは自分でなんとかする」といった考え方が多いように感じている。これから福祉については、憲法でいうところ、第25条の考え方だけではなく、第13条の幸福追求といった考え方を取り入れていかなければならないと感じている。その人なりの豊かさについては、物理的なものに豊かさを感じる人もいれば、人と人との繋がりとところで豊かさを感じる人もいるし、人それぞれである。それぞれの幸せ、豊かさがあるので、そういったことをしっかり理解できるよう、繋がりという道筋をつくっていくことが大切である。

（参加者）

・繋がりといった部分で、「助けて」と声を上げてもらうためには、やはり明るい声かけや関係づくりが大切。「助けてと言える」というフレーズは良いと思う。

（参加者）

・進行役が作成した「誰もがそのひとらしく幸せを実現する」や「生きるため」といったフレーズがあり、どちらかというと前向きなイメージがしてとても良いと感じている。

資料3の「無理をしない」「できる範囲で」といったフレーズは、現状のなかで、助け合うまちづくりを目指したスローガンであり、前向きさという観点でいうとやや物足りないと感じている。

良いことを次の世代に引き継いでいく、今後何かを実現しようというような内容といった前

向きなスローガンの方が、目にする人にとってはわかりやすいと思う。また、資料3の上から2番目の、「困っている人に対して、なんもなんもと『包み込む』」というフレーズは、優しい表現で良いと思うが、今の状況に対する活動の具体性にやや欠けるのではないか。一方、資料3の上から3番目については、「持続可能」という目標が明確に感じられる。「誰もがその人らしく」といったフレーズにプラスして、目標とするところが明確になっていけば良いと思う。なお、進行役案のスローガンについては、上から2番目のスローガンが良いと感じている。

(進行役)

- ・(用語の確認として)福祉というのは、言葉の意味合い的に「幸せになる」「幸せを実現する」といったことを示すものであると認識している。

(参加者)

- ・スローガンは3つ程度の記載になるのか。全てを統合して一本化するのか。

(進行役)

- ・スローガンの個数も含めて協議していきたい。

(参加者)

- ・課題が大きく分類されて3つあるため、ひとつひとつの課題に対してのスローガンを設けるという形でも良いと思う。

(参加者)

- ・こういったスローガンはまとめるのは非常に難しい。進行役が作成していただいたスローガンは非常にわかりやすく、昔から福祉は特別なものではなく、「ふだんの 暮らしの しあわせ」や「生活」というように言われていることから、「暮らし」「繋がり」などといったフレーズは良いと思った。

2030年の旭川のあるべき姿といった意味で考えた場合は、どこでも使えるような、一般的にも使えるようなスローガンであることと同時に、もう少しスローガンのなかに、「旭川らしさ」など、これまで協議してきた結果から出てきた地域性のような文言を入れることが、私たちが未来会議で協議した結果としての在り方としてより良いのではないかと考えている。

(参加者)

- ・とても良いアイデアであると感じると同時に、旭川らしさは一体何なのかということのスローガンの中で表現することは難しいとも思っている。これまで会議で協議されてきたなかで、課題として挙げられているのが、「地域活動におけるつながりを育もう」といったことであり、課題に対するスローガンを考える中で、旭川らしさを関連付けてスローガンを作成していくことは難しいのではないか。

(参加者)

- ・旭川だけではないと思われるが、私は地域包括支援センターで働くなかで、地域住民から「旭

川は病院や事業所がとても多い」とよく耳にする。第1回の会議で出ていた有料老人ホームの増加だけではなく、さまざまな事業所が多い。このことは旭川の強みであり、今までの課題で出ていた相談窓口の議論を含め、住民の暮らしを統合的に支援するためには、旭川の強みである豊富にある民間事業者と行政が、官民一体の支援体制のもと福祉が実現されることが大切であると思う。

また、「SDGs」「持続可能」「権利擁護」など、国際的に目標とされているワードをスローガンに使用することはあり得る選択肢と思っている。

一方で、資料3のスローガンの案の一つとして、北海道弁の「なんもなんも」というフレーズが入っていることに対し、非常にあたたかみも感じている。こういった言葉があれば、スローガンをより身近に感じてもらえるのではないかと感じている。

(参加者)

- ・地域共生型の社会を創るに当たり、この会議で整理された大分類の課題というのは、一般的な内容であると同時に、旭川の地域性が反映された課題であると考えて良いと思う。

このため、例えばそれぞれの大分類と、先ほど（参加者）が発言した「助けて」というフレーズや、「繋がり」「支え合い」「多世代」など、何かキーワードのようなものを合わせて、スローガンを考えていくことが良いと思う。

(参加者)

- ・話がスローガンとはずれてしまうが、（他所に住んだことのある自分としては）旭川は非常に住みやすい地域であると感じる。なので、ずっと旭川に住んでいる人にもっと旭川の魅力を感じて欲しいと思っているので、福祉分野のスローガンとして、課題の解決を意識することももちろん大事であるが、旭川の魅力が伝わる内容にするというのも良いと思っている。例えば、近くにある公園やみんなが集う大きな公園は、フレイル予防に最適な社会資源であり、十分に旭川の強みの一つであると思っている。

(参加者)

- ・私は大雪が降った朝が好きである。理由としては、朝方、外に出ると、町内でみんな一斉に外に出て雪かきをしている。「大変だね」「大変だからやってあげるよ」など、お互いに声を掛け合ったりして交流している光景を見るとあたたかくて良いなと思っている。

(参加者)

- ・私たちの世代であれば、旭川の住みやすさというものを実感できていると思う。しかし、自分の町内を例にすると、まわりの地域住民が高齢化になってきており、雪に対応できる町内は少ない現状にあると思う。ボランティアについても、町内で募っても集まらない。こういった現状に対して、8年後の2030年までにどのようなアプローチができるかという視点はやはり必要であると思っている。

このことから、旭川の魅力に関する内容と現実的な内容がバランスよく記載された内容のスローガンになれば良いと思っている。

(参加者)

・進行役が作成したスローガンはどれもあたたかみがありとても良いと思うが、先ほども話に出ていたが、福祉の大枠の目標というか、抽象性が高いものであると思う。スローガンは障害を抱える方といった、当事者も目にするものであるので、自分の住んでいるこのまちの8年後のあるべき姿をパッと見たときに、もう少し具体的な内容であるほうが、当事者にとって伝わりやすいのではないかな。このことから、個人的には資料3の案の方がより具体性があり、良いのではないかと考えている。

(参加者)

・進行役のスローガンにある「誰もがその人らしく」という表現は抽象度は高いかもしれないが、明確なメッセージがありこのフレーズは外せないと思う。

(参加者)

・進行役案のスローガンの上から2番目の「幸せに生きる」というフレーズが、スローガンの中であつたら良いなと率直に思った。

(参加者) が話していた旭川の素晴らしさについても、業務の中で、コロナ前に医師や薬剤師の実習生と話をするときには、旭川の地域性を褒められることが多く、本当に旭川は良いところであると耳にしている。その一方で「旭川は素晴らしいものがあるのに、肯定することが得手ではないのかもしれない」という話も聞いたことがある。

自分は、資料3と進行役が作成したスローガンはどちらも良いと思っているおり、実現は難しいと思うが、これまで話したよう旭川の強みや地域特性を盛り込むことができればさらに良いと思っている。

(参加者)

・旭川の良さというのは、住んでいたらわからなかったりするものである。ずっと同じ地域に住んでいるとわからなくなってくる。医療・介護が充実しており社会資源が豊富にあるといったところは、知っている人しか知らない情報であると思う。いい部分、魅力を表現できれば良いと思うが、一言で表現するのは非常に難しいと思う。

(進行役)

・本日の議事として用意していた、未来会議に参加いただいた各参加者からの意見感想の発表については、後日事務局に個別に提出してもらうこととして、休憩後もスローガンの内容について更に考えていくこととする。

(進行役)

・「困っている」という声をきちんと聞ける体制の具体的なものをアプローチ方法に入れて欲しいと思った。アプローチ方法を具体的に記載してスローガンがあれば良いと思う。

(参加者)

- ・ちなみに資料3のスローガンの案はどのようにして作成したのか？

(事務局)

・進行役と相談しながら作成させていただいた。例えば、上から2番目のスローガンについては、これまで会議で協議されていた「相談支援」のことを想像して作成したものである。支援が必要であるという声を上げられる人は、どこかの相談窓口につながる。しかし、声を上げられない人は、支援につながる事が難しい。その状況に身近に気づくことができるのは地域住民であり、その気づきをしっかりどこかの相談機関に繋げて、支援者が当該ケースに寄り添い、課題解決を図っていくことをイメージしている。

(参加者)

・2ページに「ボランティアや地域福祉の担い手が固定&不足しており活動の停滞・硬直化がみられる」とある。これまで協議されていたなかで、同じ担い手がずっと担い続けているから、新たな担い手にバトンタッチができなかったり、活動する内容についてもマンネリ化してしまっているという課題があったかと思う。そのため、「若い人が担っていけるような旭川」というような、課題に対してのスローガンとなっても良いと思う。「若い人がボランティアに参加できる旭川」など、スローガンを通じて、地域福祉活動に参加しやすい雰囲気づくりができれば良いと思っている。

(進行役)

・スローガンの作成にあたって、誰もが地域住民の一員として福祉のまちづくりに参加できるようなイメージが良いと思った。活躍できる、参加できるといったフレーズがあれば良いと思う。

(参加者)

・地域共生社会を学ぶことにより地域住民も活動に参加しやすくなるというようなスローガンがあっても良いと思う。みんなが対象であるという部分が重要。

(参加者)

・「多世代が暮らす地域」「多世代が創る地域」など、みんなで暮らしているといった表現も良い。

(参加者)

・「みんなで創る」というフレーズが良い。

(参加者)

・スローガンは「〇〇のまち」で締めくくる形も最終的には良いと思うが、まずは地域単位の繋がりや活動を強調すると良い。

(参加者)

・スローガンとしては、個々の課題や目指すべき姿を包括的に表現せざるを得ない側面があると思うので、「みんなで創る地域」「みんなが参加する地域」というのは、これからの地域福祉を柔軟に考えるというフレーズに含まれる内容であるとする、資料3の上から3番目のスローガンに組み込まれているように感じる。

(参加者)

・進行役案の上から2番目のスローガンが良いと思っている。「誰もが住みやすく」といったフレーズで、どういう福祉を目指すのか表現されている。

また、事務局案の上から2番目、3番目のスローガンについても、地域福祉の必要性や、官民一体を目指す福祉を表現したスローガンで良いと思う。

全てのスローガンが「〇〇のまち」で締めくくるスローガンでなくても良いと思う。進行役案のスローガンを「〇〇のまち」とひとつあって、補足するような形で資料3のスローガンが続いていく形が良いと思う。

(進行役)

・進行役案の上から2番目のスローガン、事務局案の上から2番目、3番目のスローガンの3つのスローガンをベースにして修正する。いただいた御意見を踏まえ、改めて事務局と整理させてもらう。

ウ 全体発表会に係る報告者について

本会進行役が推挙され、全会一致で承認された。

(3) 事務連絡（運営事務局から）

- ・全体会議での市長への報告が、11月1日に確定している。
- ・本日の会議記録及び協議事項を整理した内容について、進行役と協議をした上で後日送付するので、確認及び加除修正その他の意見があれば言ってほしい。
- ・協議時間の都合により、本日参加者より伺うことができなかった未来会議2030に参加した感想・意見について【議事(3)】は、別途集約を行うこととする。

※ 参加者からの質疑なし

(4) 閉会